

## 令和2年度秋田県協議会重点取組事項PDCAシート

## ○農産物輸送の付帯作業等の改善

## ○重点取組事項概要

平成30年度に実施したコンサルティング事業において、課題となった部分の検討を行い、働き方改革関連法に対応したトラックドライバーの長時間労働の改善に向け、秋田の未来の物流を考える協議会の中にある「農林水産物流検討ワーキンググループ(以下WG)」との連携を図り、令和3年度に取り組む実証実験を実施するための方向性を検討する。

## ○OKPI

・秋田の未来の物流を考える協議会と連携した令和3年度の実証実験を検討  
県南地区青果物集出荷所、JA、運送事業者のヒアリングを実施(3ヶ所)  
JA、生産者等へパンフレット(資料3)で周知・協力を図る(県内JA本・支店約160ヶ所、JA13団体へ配布)  
(実施方法はWGと連携した取り組み)

※令和3年度に、国等の補助金を活用した実証実験に向けた方向性を、WGと連携し検討する。

## ○重点取組事項の取組状況

・令和2年度第2回秋田の未来の物流を考える協議会において、WGで課題等の検討を行った結果を報告し、実証実験等を含め具体的な改善対策の構築に向けて協議した。  
・当協議会事務局において、国の補助金等を活用した実証実験の具体的な内容の検討を行った。

## 【KPI】

・協議会事務局で運送事業者等へヒアリングを実施した。(全2回)  
①全農秋田県本部・JA秋田ふるさと・羽後運輸(実運送事業者)(3ヶ所)  
②全農物流秋田支店、十文字営業所(元請運送事業者)・羽後運輸(実運送事業者)  
(①の補完調査)  
・パンフレットの作成・配布について  
2月までに作成、配布予定であったが、3月22日開催の秋田の未来の物流を考える協議会で令和3年度の実証実験を含め方針を提案する予定であり、パンフレットの作成、配布等は実施出来なかった。

## ○課題及び今後の対応の方向性

## 【ヒアリングにおける課題】

・生産者からの出荷量が分かれば計画的に進めるが、天候等により出荷量情報が大きく変わる。  
・低温倉庫があれば、1日予冷後出荷で前日に物量把握が可能となる。  
・花きの集荷は、全県単位で回っているため、途中で集荷量が増えると積み残しが発生する。

## 【今後の対応の方向性】

・課題解決のためには、令和3年度の実証実験を行うことが関係者の理解を得る上で有効と考えられる。  
・国の補助金等を活用した実証実験については、3月22日開催する秋田の未来の物流を考える協議会において、集荷と幹線を分離した輸送の効果や出荷量の事前把握による適正な配車の可能性等を提案する。  
・PRパンフの配布については、実証実験等を行うJA、生産者等へ配布し、事業に対する理解や協力が得られるよう活用する。